

<研究ノート>

代名詞代用・呼びかけ表現研究の現状：

タイ語, ビルマ語, マレー語, インドネシア語, ジャワ語, 朝鮮語

**Current state of studies on pronoun substitutes and address terms:
Thai, Burmese, Malay, Indonesian, Javanese and Korean**

野元 裕樹¹, スニサー ウィッタヤーパンヤーノン (齋藤)², 岡野 賢二¹,
トゥザ ライン², 南 潤珍¹, スリ・ブディ・レスタリ³

**Hiroki Nomoto, Sunisa Wittayapanyanon (Saito), Kenji Okano, Thuzar Hlaing,
Yunjin Nam, Sri Budi Lestari**

¹ 東京外国語大学大学院総合国際学研究院
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

² 東京外国語大学世界言語社会教育センター
World Language and Society Education Center, Tokyo University of Foreign Studies

³ 立命館アジア太平洋大学言語教育センター
Center for Language Education, Ritsumeikan Asia Pacific University

要旨：多くの東アジア・東南アジアの言語では、親族名称など、人称名詞ではないものの人称代名詞のように話し手や聞き手を指示する代名詞代用表現が一般的に用いられる。代名詞代用表現は呼びかけ表現と分布がかなり重なる。本稿では、タイ語、ビルマ語、マレー語、インドネシア語、ジャワ語、朝鮮語における代名詞代用・呼びかけ表現に関する先行研究を統括する。2つの現象が区別されているか、用いられている名称、形式的・意味的特徴、人称代名詞との関係、英語の「なりすまし」(Collins & Postal 2012)との違いの問題を中心に取り上げる。

Abstract: Many languages in East and Southeast Asia exhibit an intensive use of pronoun substitutes, such as kinship terms, that refer to speakers and addressees in the way that personal pronouns do although they are not considered personal pronouns. The distribution of pronoun substitutes overlaps substantially with that of address terms. This study thus provides an overview of previous studies on pronoun substitutes and address terms in Thai, Burmese, Malay, Indonesian, Javanese and Korean and covers the following issues: whether the two phenomena are distinguished, the terminology used for them, their formal and semantic characteristics, their relation to personal pronouns and how pronoun substitutes differ from the so-called “imposters” (Collins & Postal 2012) in English.

キーワード：代名詞代用, 呼びかけ, 人称代名詞, 人称詞, なりすまし

Keywords: pronoun substitutes, address terms, personal pronouns, person terms, imposters

1. はじめに*

たいていの言語には、話し手・聞き手を指示する専用の語が存在する。日本語の「私」、「あなた」や、英語の I, you がそれにあたる。そのような語を本稿では議論の便宜上、人称代名詞と呼ぶこと



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

* 本研究は JSPS 科研費 JP20H01255 の助成を受けたものである。本稿で用いる略号のうちライブツイヒグロス規則にないものは、以下の通りである。HON: honorific; PART: particle

にする¹。話し手・聞き手の指示は人称代名詞以外によっても可能である。Sneddon et al. (2010) に従い、人称代名詞以外の話し手・聞き手指示表現を「代名詞代用表現 (pronoun substitute)」と呼ぶ。代名詞代用表現として最も一般的なものは、親族名称である。(1) でゴシックで示した語が代名詞代用表現である。同じ語でも太字で示したものは代名詞代用表現ではなく、母／兄であるという特性を持つ話し手・聞き手以外の人物を指示する。

- (1) a. [兄が妹に] (「お兄ちゃん」＝話し手)
お兄ちゃんの言うこと聞かなかったら、お母さんに言いつけるよ。
b. [娘が母親に] (「お母さん」＝聞き手)
お母さんのお兄ちゃんの名前、何だっけ？

代名詞代用表現として用いられる要素はしばしば、同時に聞き手を同定するためにも用いられる²。そのような表現を呼びかけ表現 (address term) と呼ぶ。例えば、(1b) は、呼びかけ表現としての「お母さん」を加え、(2) のように言うこともできる。

- (2) お母さん、お母さんのお兄ちゃんの名前、何だっけ？

このように、代名詞代用表現と呼びかけ表現の間には、ある程度重複が見られる。しかし、両者の分布は完全には重ならない。そのため、両者は区別して扱わなければならない。(3) に示したように、「店員」は呼びかけとしては可能だが、代名詞代用には使えない。代名詞代用表現としては、「店員さん」のように敬称「さん」が必要になる。

- (3) おい、店員、{お前/*店員} の計算、違うじゃないか。

おそらく、代名詞代用表現のような現象はほぼすべての言語に存在する。しかし、英語や華語諸語をはじめとする多くの言語では、代名詞代用表現は幼児語 (例: mummy) やごく一部の使用域 (例: 学術領域における the author) に限定される。その一方で、日本語のように代名詞代用表現が広範に用いられる言語もある。筆者らは後者のタイプの言語における代名詞代用・呼びかけ表現を研究する通言語プロジェクトに取り組み始めた³。本稿はその第一段階として、筆者が専門とする言語 (表 1 参照) の先行研究における代名詞代用・呼びかけ表現の扱いを整理することを目的とするものである。また、その過程で得られた若干の知見についても報告する。まず、2 節で先行研究を調査するにあたり注目した点についてまとめ、その後の 3-7 節で各点について詳しく触れる。そして、最後に 8 節でそれを踏まえた今後の研究の展望について論じる。なお、タイ語についてはスニサー (2020) でさらに詳細に論じているので、参照されたい。

¹ ある言語の文法において人称代名詞という範疇を認定すべきか否かという問題は別に存在する。

² 意図される聞き手の注意が対話に向いていない場合には、聞き手の同定は聞き手の注意を喚起し、対話に関与させる効果を持つ。すでに聞き手が同定され、対話に積極的に関与している場合には、聞き手の再同定により、ポライトネス等の対人的・社会的効果が生じる。

³ 科研費基盤研究 (B) 「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学的研究」 (研究代表者: スニサー・ウィッターヤーンパンヤーン)

表 1. 本稿の対象言語

言語	主な使用地域	系統	基本語順	形態類型
タイ語	タイ	タイ・カダイ語族	SVO	孤立的
ビルマ語	ミャンマー	シナ・チベット語族	SOV	膠着的
マレー語	マレーシア, シンガポール, ブルネイ	オーストロネシア語族	SVO	膠着的
インドネシア語	インドネシア	オーストロネシア語族	SVO	膠着的
ジャワ語	インドネシア	オーストロネシア語族	SVO	膠着的
朝鮮語	韓国, 北朝鮮	朝鮮語族	SOV	膠着的

2. 問題の所在

各言語における先行研究調査にあたり共通して着目した点は以下の通りである。

1. 代名詞代用と呼びかけが区別されているか？
2. 当該の表現が何と呼ばれているか？
3. 代名詞代用・呼びかけ表現となり得る要素の形式的特徴
4. 代名詞代用・呼びかけ表現となり得る要素の意味的特徴
5. 人称代名詞との関係
6. その他の一般化

代名詞代用と呼びかけが区別されているか？ 前節で述べたように、代名詞代用表現と呼びかけ表現はその分布が大きく重なる。そのため、先行研究では両者の区別が十分になされていない可能性がある。

当該の表現が何と呼ばれているか？ 本稿では「代名詞代用表現」、「呼びかけ表現」という用語を用いているが、これらは特定の分析が入り込んだ名称である。「代名詞代用表現」という名称は、当該の表現が本来は人称代名詞で出現すべき要素の代用であるという分析が前提にある。「呼びかけ表現」という名称は、聞き手の同定と「呼ぶ」という行為を同一視する分析が前提にある。対象言語の先行研究のすべてがこのような立場に立っているとは限らない。さらに、代名詞代用表現と呼びかけ表現が区別されている場合、それらを含む上位概念が何と呼ばれているかも調べた。用語名を把握することにより、その背景にある考え方を知ることができるほか、他の文献を見つけるための足掛かりを築くこともできる。

代名詞代用・呼びかけ表現となり得る要素の形式的特徴 代名詞代用・呼びかけ表現は、言語形式の形態統語的分類、すなわち品詞・統語範疇ではなく、言語形式が担う意味の範疇、すなわち用法・機能である。修飾という意味機能が名詞句、形容詞句、動詞句、側置詞句などさまざまな統語範疇に存在するのと同様に、代名詞代用・呼びかけもさまざまな統語範疇により実現され得る。ゆえに、代名詞代用・呼びかけ表現研究の主要な目標の一つは、それらの意味機能がどのような統語範疇に存在するのかを明らかにすることである。また、代名詞代用・呼びかけ表現は、単一の語とは限らず、複数

の語や形態素から構成されることもあり（例：「店員さん」、「お隣のお客様」）、それは形態統語論的な特徴である。

代名詞代用・呼びかけ表現となり得る要素の意味的特徴 代名詞代用・呼びかけ表現となり得る要素は形態統語論的特徴のみでは規定できない。「お母さん」、「お兄ちゃん」はともに普通名詞であるが、すべての普通名詞が代名詞代用・呼びかけ表現として容認されるわけではない。そこには「親族名称」のような意味的特徴も関与する。

人称代名詞との関係 人称代名詞と代名詞代用表現は、どちらも話し手・聞き手を指示する表現である点で共通し、前者のみがそのための専用の表現であるという点で異なる。両者には、その他の点ではどのような相違点があるのか？ 現代日本語では、英語の人称代名詞のような、共通の文法的特性を示す閉じたクラスの人称代名詞体系は認められないとされる（田窪 1997）。しかし、そのことと代名詞代用表現の広範な使用が直接関係するのかは、日本語だけを見ても分からない。

3. 代名詞代用と呼びかけの区別およびその名称

代名詞代用表現と呼びかけ表現には重複が見られ、いずれも人の指示に関するものであるため、インドネシア語以外の言語では、調べた文献の大半で両者の区別はきちんとなされていなかった。例えば、マレー語の先行研究 Nor Hashimah et al. (2005) は、家族に関する代名詞代用・呼びかけ表現を含む 71 ページもの会話データを収録するものであるが、それに基づいた記述ではどちらの表現も *kata panggilan*（呼びかけ語）と呼び、明確な区別をしていない。

表 2 は、代名詞代用、呼びかけに特化した用語として見つかったものをまとめたものである。参考として、日本語の代名詞代用・呼びかけ表現についての先駆的研究である鈴木 (1973) の用語も表に入れた。鈴木は、代名詞代用・呼びかけ表現をまとめる上位範疇を「人称詞」と呼ぶ。鈴木の人称詞に相当する上位範疇は、Connors, Brugman & Adams (2016) が *people referring expression*, Ewing & Djengar (2019) が *person term* と呼んでいる。しかし、その他の文献には上位概念への言及は見出せなかった。

タイ語の先行研究 Navavan (2016) が代名詞代用表現に対して用いる *kham-naam*（名詞）という用語は、*kham-bòk-bu-rùt*（人称表現）という範疇の下位範疇である。後者には代名詞代用表現と人称代名詞が含まれる。Angkab (1972) も同様に、代名詞の下位範疇として、厳密な意味での人称代名詞 (*pronoun proper*) と親族名称などの代名詞代用表現を立てている。Navavan は、人称代名詞にも *kham-bòk-bu-rùt* という用語を用いている。つまり、この用語はその指すところが曖昧である。このような曖昧性を排除するために、スニサー (2020) は代名詞代用表現に対して *kham thæn bu-rùt sàp-pha-naam* というタイ語の用語を提案している。

ビルマ語の先行研究 Okell (1969: 99) は、代名詞代用表現を *personal referent* と呼ぶ。岡野 (2019) はこれを「人物指示詞」と訳している。人物指示詞は、名詞の下位分類でそこには人称代名詞も含まれる。従って、人物指示詞は代名詞代用表現に特化した用語ではない。

本稿における「代名詞代用表現」という用語は、インドネシア語の先行研究 Sneddon et al. (2010) の *pronoun substitute* の訳であり、当該の表現が本来ならば人称代名詞が生起する位置に代わりに生起しているという分析が前提にある。このような「代用」という見方は、インドネシア語学に限られるものではない。表 2 には、代用という見方を窺わせる用語が言語を超えて見られる。 *pronoun/pronominal*

表 2. 先行文献における用語

言語	代名詞代用	呼びかけ	文献
タイ語	kham-naam (名詞)	kham-rîak (呼びかけ語)	Navavan (2016)
	–	kham-rîak-khăan (呼びかけ語)	M. R. Kalaya & Amara (1986)
ビルマ語	言及 (reference), 代名詞的用法	呼びかけ (address)	藪 (1992)
マレー語	pronoun substitute	–	Radiah (2007)
	–	seruan vokatif (呼格感嘆文)	Asmah (2009)
インドネシア語	呼称	呼びかけ	小野沢 (1996)
	pronoun substitute	vocative	McGinn (1991); Sneddon et al. (2010)
	pengganti pronomina (代名詞代用表現)	sapaan (vokatif) (呼びかけ [呼格])	Alwi et al. (1998)
	imposter use	vocative use	Conners, Brugman & Adams (2016)
朝鮮語	referring	addressing, address term	Ewing & Djenar (2019)
	pronominal substitute	–	Martin (1992)
日本語	imposter	–	Kim (2015)
	代名詞的用法	呼格的用法	鈴木 (1973)

substitute (マレー語, 朝鮮語), 代名詞的用法 (ビルマ語, 日本語) がそれである. タイ語の先行研究 Angkab (1972) は, 代名詞代用表現という範疇は設けていないが, 代名詞代用・呼びかけ表現の下位分類に際して, foreign loan words as pronouns, titles as pronouns のような表現をしている. 以下は, 代用という見方が反映された記述の抜粋である (強調は筆者が追加).

The original set of pronouns has been expanded in Burmese by a rather big, probably open, class of kinship, professional, and social terms that are *used in the place of pronouns*. (ビルマ語, Jenny & San San Hnin Tun 2016: 52)

[...] the use of second-person pronoun is a complicated matter. Because of this, kinship terms, and titles are often *used as substitutes* (マレー語, Liaw 1999: 40)

Sebutan pangkat atau gelaran biasanya *berfungsi sebagai ganti nama*. (位や称号を述べると普通, 代名詞として機能する.) (マレー語, Asmah 2009: 88)

Certain sets of nouns are *pronominally used* to fill in the empty slots where “common” personal pronouns are found unsuitable to express various delicate differences of reverence

in terms of age and social status. (インドネシア語, [Kaswanti Purwo 1984: 62](#))

代用という見方を西欧語文法の研究に影響された結果であると批判する向きもあるかもしれない(例: [Alves 1997](#); [Flannery 2009](#)). しかし, 少なくともタイ祖語, オーストロネシア祖語には西欧語式の人称代名詞体系が再建されており, 現代のタイ語, マレー語, インドネシア語, ジャワ語にもそれは引き継がれている. そのため, 人称代名詞が文法の基層に確固として存在し, それを覆うように登場したさまざまな表現は, 人称代名詞に代わるものとして捉えられているのだとも考えられる. 人称代名詞との関係については, 6 節でさらに論じる.

4. 形式的特徴

4.1 統語範疇

代名詞代用・呼びかけ表現になり得る形式は, 意味的特徴により記述されることが多く, 統語範疇への言及はあまりない. 親族名称や固有名は名詞であることが自明のこととされるのだろう. 名詞の他に代名詞代用表現になり得る統語範疇として, インドネシア語で指示代名詞 (4), 場所代名詞 (5) ([Conners, Brugman & Adams 2016](#)), 朝鮮語で現場指示詞 (6) ([パク 2007](#)) が指摘されている.

- (4) a. *Ini udah mau bobo!*
this already want sleep
「これ (=私) はもう寝たい！」
- b. *Tuh mau pergi kan?*
that want go PART
「それ (=あなた) は行くよね？」 ([Conners, Brugman & Adams 2016: 78](#))
- (5) a. *Sini dah kasi dech.*
here already give PART
「こっち (=私) はもうやったよ。」
- b. *Sono ikut ga?*
there follow not
「そっち (=あなた) は来る？」 ([Conners, Brugman & Adams 2016: 78](#))
- (6) a. 話し手指示: *iccok* 「こちら」
b. 聞き手指示: *kuccok* 「そちら」, *kutay* 「そなた」

呼びかけ表現になり得る統語範疇についての明示的記述はほとんど見つからなかった. 代名詞代用表現と分布が重なるためだろう. 代名詞代用表現には定義上なり得ないものの, 呼びかけ表現にはなる統語範疇としては二人称の人称代名詞が挙げられる ([Navavan 2016](#)).

4.2 内部構成

代名詞代用・呼びかけ表現は複数の要素から構成され得る. 代名詞代用表現については, 固有名に敬称, 肩書, 親族名称が付いた形式がビルマ語 ([Okell 1969: 99–101](#)) とインドネシア語 ([Conners, Brugman & Adams 2016](#)) で指摘されている. ビルマ語の例 (7) は職業上の肩書+親族名称に由来す

る敬称+固有名から成る.

- (7) shǎyà ?ú ?àunhlâ
teacher uncle (Mr.) Aung Hla

代名詞代用表現と呼びかけ表現の区別をしない形では, マレー語でも同様の記述がある (Asmah 2009: 50–51). (8) は政府が与える称号+学位+親族名称+宗教上の資格+固有名から成る.

- (8) Tan Sri Prof. Abang Haji Ali
Tan Sri Prof. brother haji Ali

M. R. Kalaya & Amara (1986) はタイ語の呼びかけ表現について, 代名詞・敬称, 親族名称, 階級 (rank), 職業上の肩書 (title), 名前, 愛情表現のうち最低 1 つをこの順で含め, さらに khá?, kháp などの終結小辞 (final particle) を付けることが可能であると一般化している. (9) は敬称+親族名称+職業上の肩書から成る.

- (9) khun p̄aa ?aa-caan
TITLE aunt teacher

上のような組み合わせはおそらく複合であろう. 統語的句については, 代名詞代用表現と呼びかけ表現の間に差があるようである. 呼びかけ表現の内部構造はかなり複雑になることがある. TUFUS アジア言語パラレルコーパス (TALPCo; Nomoto et al. 2018) に (10) のようなインドネシア語の例がある. このコーパスは, 日本語文をアジアの諸言語に翻訳したものである.

- (10) Orang nomor satu sampai nomor sepuluh, silakan masuk.
person number one till number ten please enter
「一番の人から十番の人まで入ってください。」 (TALPCo #1647)

このような複雑な名詞句は代名詞代用表現としては容認されない.

- (11) [1 番から 10 番の番号札の人に対して]
*Saya sudah panggil nama orang nomor satu sampai nomor sepuluh tadi.
1SG already call name person number one till number ten just.now
(「私は一番から十番までの人 (=あなたたち) の名前をもう呼びました。」の意で)

4.3 短縮形の振舞い

マレー語, インドネシア語, ジャワ語の代名詞代用・呼びかけ表現には, 完全形とその短縮形の対を持つものが多く存在する. (12) はインドネシア語の例である.

- (12) ibu – bu「母」, bapak – pak「父」, adik – dik「弟・妹」, kakak – kak「姉(・兄)」, abang – bang「兄」, profesor – Prof「教授」, dokter – Dok「医者」

インドネシア語について、[Alwi et al. \(1998: 259\)](#) と [Sneddon et al. \(2010: 167\)](#) は、完全形は単独で単独で代名詞代用表現になるが、短縮形にはならないと述べている^{4, 5}.

- (13) *Tadi pagi Pak pergi ke mana?
this morning father go to where
〔今朝、あなたはどこに行きましたか?〕の意で

一方、短縮形は呼びかけとしてなら単独で用いることができる ([Alwi et al. 1998: 260](#); [Sneddon et al. 2010: 167](#)).

- (14) Tadi pagi pergi ke mana, Pak?
this morning go to where father
〔今朝、(あなたは)どこに行きましたか、お父さん?〕

マレー語とジャワ語については、完全形と短縮形の中の振舞いの違いについての記述は見当たらなかった。今後の研究で明らかにすべきことの一つである。

4.4 ゼロ代名詞／項の省略

代名詞代用表現との関係で対象言語すべてに記述が見つかったのが、ゼロ代名詞あるいは項の省略の頻繁な使用である ([Cooke 1968](#); [Theeraporn & Uehara 2012](#); [Okell & Allott 2001: xv](#); [Mintz 2002: 92](#); [Conners, Brugman & Adams 2016](#); [ソ 1990](#))。この現象は代名詞代用表現とは直接の関係はない。当該の現象がゼロ代名詞の使用だとすれば、それは人称代名詞の体系の問題であるし、項の省略であれば、それは省略という統語現象の問題であるからだ。

しかし、ゼロ代名詞／項の省略に観察される規則性が代名詞代用表現と呼びかけ表現の区別の手がかりとなることがある。タイ語の先行研究 [Cooke \(1968: 16\)](#) は、呼びかけ表現の後の聞き手を表す名詞句は頻繁に省略されるという一般化をしている。(15) では省略された名詞句を *pro* で示してある。

- (15) khun bun-líaj khráp *pro* pay nǎy maa
TITLE Boonliang PART go where come
〔ブンリアンさん、どこに行ってきたの?〕 ([Cooke 1968: 16](#))

⁴ ただし、東インドネシアには短縮形が代名詞代用表現になる地域もある ([Alwi et al. 1998: 260](#))。

⁵ [Conners, Brugman & Adams \(2016\)](#) は、以下のような例を挙げて、短縮形が代名詞代用表現として普通に用いられるとしている。しかし、この例の *Pak* は呼びかけである可能性が高い。4.4 節で述べるように、*ya* のような小辞の存在は呼びかけを文頭の主語から区別する手がかりとなるためである。

- (i) Pak ya makan olahan sini mah ya?
father yes eat menu here PART yes
‘You are eating (off) the menu here ya.’ ([Conners, Brugman & Adams 2016](#))

この文で *pro* を復元できるのは, 小辞 *kh ráp* があるおかげで *khun bun-líaj* が文頭の主語ではなく, 呼びかけであることがはっきりするためである⁶。逆に, 小辞がないと文頭の要素が呼びかけなのか代名詞代用なのか曖昧になる。

5. 意味的特徴

3節で述べたように, ほとんどの先行研究において代名詞代用と呼びかけの区別が明確になされていない。そのため, 本稿でも先行研究に言及がない限りは, 2つをまとめて扱う。提示された例が代名詞代用と呼びかけの両方に使えるとは限らないことに注意されたい。

代名詞代用・呼びかけ表現の意味的特徴としてどの言語でも指摘されているのは, 親族名称, 固有名, 「先生」のような職業などにおける役割名である。親族名称には, 親族に対する使用に加え, 親族関係にない人々にまで類似の関係を拡大して適用する, 虚構的用法も含まれる。日本語では「お母さん」, 「お兄ちゃん」は代名詞代用・呼びかけに使えても, 「子」や「弟」は普通使えないといった具合に, 非対称性が見られる。しかし, 対象言語のいずれでもそのような非対称性は指摘されていない。

親族名称と固有名以外の例を表3に示す。上述のもの以外に, マレー語の *Dato'/Datuk* 「ダト (称号)」のような称号やインドネシア語の *sayang* 「愛しい人」のような愛情表現 (cf. 英 *honey*) もある。マレー語の *encik* は人名の前に付く「～さん」がそのまま代名詞代用・呼びかけ表現になるものである⁷。ジャワ語の例は筆者がインドネシアの小・中・高等学校で用いられているジャワ語の教科書から採ったものである。

6. 人称代名詞との関係

本稿の対象言語はいずれも西欧語などに比べると人称代名詞の数が多い。表4は, 藪 (1992) がビルマ語の人称代名詞体系を整理したものである。藪も Okell (1969: 99–101) もこの表にはない相当数の人称代名詞を代名詞代用表現とは別に列挙している。これらは話し手の性別や丁寧さの度合いなどにより使い分けられる。このような人称代名詞体系は, Thomason & Everett (2005) の言う「開いた代名詞体系 (open pronoun system)」にあてはまる。開いた代名詞体系では, 他言語からの借用も含め, 自称や対称にさまざまな形式が存在する。

人称代名詞の数は多いものの, ビルマ語とは異なる様相を呈するのがジャワ語である。ジャワ語の人称代名詞体系を表5に示す。ジャワ語の場合, 人称代名詞は表にあるものと1人称包括複数 *awake dheweo* およびインドネシア語からの借用と考えられる *kita* に限られる。人称代名詞の数が多いのは, 敬語体系に合わせて独自の形式が発達したことによる。自称や対称にさまざまな形式が存在するという定義的には Thomason & Everett (2005) の「開いた代名詞体系」に分類できるものの, ジャワ語の人称代名詞が開いたクラスであるとは考えにくい。また, マラヨ・ポリネシア祖語では存在していた単複の区別がほとんど失われている点でも, 人称代名詞の総数を少なくしようという力が働いているのではないか。

従って, 閉じたクラスとしての人称代名詞体系を持たないことは, 代名詞代用表現の一般的使用の

⁶ 注5のインドネシア語の例も参照されたい。

⁷ 日本語では敬称は代名詞代用表現にはならない (野元 2019)。だが, 例外として, オタクの世界では対称として「氏」を用いる (加藤重弘氏私信)。

表 3. 親族名称・固有名以外の代名詞代用・呼びかけ表現の例

言語	例	文献
タイ語	【代名詞代用】 khruu 「先生」, nák-rian 「生徒」, naay 「主人」, bàaw 「召使い」, mǎo 「医者」, mǎe-kháa 「女性の物売り」 【呼びかけ】 fɛɛn 「恋人」, khon-khàp-rót 「運転手」	Navavan (2016) Angkab (1972)
ビルマ語	shǎyà 「先生」, shǎyàwùn 「医者」, kòdò 「僧侶, 王族」, p ^h óundzí 「僧侶」, wùndzí 「大臣」, hlés ^h ǎyà 「荷車運転手」	Okell (1969)
マレー語	cikgu 「先生」, Dr. 「医者, 博士」, Dato'/Datuk 「ダト (称号)」, Haji 「メッカ巡礼者 (男性)」, Yang Arif 「博学な方 (裁判官に用いる)」	野元 (2020)
インドネシア語	【代名詞代用】 dokter 「医者」, profesor 「教授」, lurah 「村長」, kapten 「大尉」 【呼びかけ】 sayang 「愛しい人」, manis 「甘い人」, Tuan Dokter 「医者様」, Pak Hakim 「裁判官様」, Ketua 「長」	Alwi et al. (1998)
ジャワ語	profesor 「教授」, dokter 「医者」, suster 「看護師」, prabu 「王様」, sultan 「スルタン」, kyai 「イスラーム教長老」, raden 「王族・貴族の子孫」	
朝鮮語	sensayngnim 「先生」, ponkica 「本記者」, phansanim 「裁判官」	Kim (2015)

表 4. ビルマ語の人称代名詞体系 (藪 1992)

人称	単数	複数
1 (男性用語)	tɕǎnò	tɕǎnò-dò
(女性用語)	tɕǎmâ	tɕǎmâ-dô
2 (男性用語)	k ^h ìnmjá	k ^h ìnmjá-dô
(女性用語)	ɕìn	ɕìn-dô
3	tù	tù-dô

前提条件にはならない。ビルマ語タイプとジャワ語タイプの両方を考慮に入れると、代名詞代用表現は人称代名詞体系の拡大の延長線上にあると考えられる⁸。これはまさに Jenny & San San Hnin Tun (2016) が 67 ページの引用で述べていることである。拡大の結果、人称代名詞はビルマ語のように開いたクラスとなることもあれば、ジャワ語のようにそうはならないこともあるということだろう。こ

⁸ 4.4 節で取り上げた、ゼロ代名詞も同様にして発達したと考えられる。

表 5. ジャワ語の人称代名詞体系 (崎山 1989; レスタリ 2010)

人称	常体 (ngoko)			丁寧体 (krama)	尊敬語 (krama inggil)	謙讓語 (krama andhap)
	独立形	接頭形	接尾形			
1	aku	tak-, dak-	-ku	kula	ingsun	dalem, kawula
2	kowe	ko(k)-	-mu	sampeyan	(pa)njenengan	
3	dhe(we)ke	di-	-(n)e	-pun, dipun-, piyambakipun, panjenenganipun	panjenengane	

の見方では、代名詞代用表現の一般的使用の前提条件は、閉じたクラスとしての人称代名詞体系の不在ではなく、逆に、それが共時的あるいは通時的に存在していることとなる。また、[Helmbrecht \(2013\)](#) のように、代名詞代用表現の一般的使用の機能的背景として、ポライトネスを理由とした人称代名詞の回避を考えることも妥当ではない。回避されるのは、人称代名詞一般ではなく、指示対象の特性にそぐわない形式であり、それは人称代名詞の場合も代名詞代用表現の場合もある。

代名詞代用表現が人称代名詞体系の拡大の延長線上にあることは、言語現象からも見てとれる。ビルマ語では、最終音節が低平調の人称代名詞に特定の格助詞が付くと、声調が下降調に変化するが (16a)、この現象は親族名称 (16b) や一部の固有名詞でも観察される ([岡野 2007: 39–40](#))。

- (16) a. tɕänò 「私 (男性用語)」 → tɕänò=gò 「私を」
 b. ʔämè 「お母さん」 → ʔämè=gò 「お母さんを」

[Sneddon et al. \(2010: 257\)](#) によれば、インドネシア語の動詞に語幹形を用いるタイプの受動文では、動作主は人称代名詞でなければならないが (17a)、当該の位置には代名詞代用表現も生起できる。(17b) の bapak 「父」は、対称の代名詞代用表現としては容認されるが、発話行為参与者以外の父である人物を指すことはできない。

- (17) a. Surat ini harus saya tandatangani.
 letter this must 1SG sign.on
 「この手紙に私はサインしなければならない。」
 b. Surat ini harus bapak tandatangani.
 letter this must father sign.on
 「この手紙に {あなた/*父} はサインしなければならない。」 ([Sneddon et al. 2010: 259](#))

7. なりすまし (imposter)

インドネシア語と朝鮮語の先行研究として、代名詞代用表現を [Collins & Postal \(2012\)](#) の「なりすまし (imposter)」とみなして論じるものがいくつかある。「なりすまし」は、名詞句に語彙的に指定された人称と実際の指示対象の人称が一致しないような現象として定義される。例えば、(18) の this

reporter は、動詞の一致から分かるように、語彙的には 3 人称である。しかし、その指示対称は話し手・書き手であり、自称として用いられている。

(18) *This reporter is/*am signing off from Madrid, Spain.* (Collins & Postal 2012: 3)

なりすましにおいて興味深い現象として、束縛がある。英語では、単数と複数の中に非対称性が観察される。(19) のコントラストに見られるように、単数では語彙的に指定された人称の照応形しか束縛できないのに対し、複数では指示対象の人称の照応形も束縛できる。

(19) [父親 (と母親) が子供に]

a. *Daddy is enjoying himself/*myself.*

b. *Daddy and Mommy are enjoying themselves/ourselves on the beach.*

(Collins & Postal 2012: 20)

この点に関して Kaufman (2014) は、インドネシア語では、代名詞代用表現を受けるのは同一の代名詞代用表現 (20a)–(20b) か指示対象の人称の人称代名詞 (20c) であると述べている。(20d) のように、3 人称の人称代名詞で受けることはできない。

(20) a. *Hanya bapak_i bisa mengerti bapak_i.*

only father can understand father

「お父さん (=あなた) だけがお父さん (=あなた) を理解できる。」

b. *Hanya bapak_i bisa mengerti diri bapak_i.*

only father can understand self father

「お父さん (=あなた) だけがお父さん (=あなた) 自身を理解できる。」

c. *Hanya bapak_i bisa mengerti diri anda_i.*

only father can understand self 2

「お父さん (=あなた) だけがあなた自身を理解できる。」

d. **Hanya bapak_i bisa mengerti diri-nya dia_i.*

only father can understand self-POSS 3SG

（「お父さん (=あなた) だけが彼 (=あなた) 自身を理解できる。」の意で）

(Kaufman 2014: 102)

Kim (2015) によると、朝鮮語の代名詞代用表現は、指示対象の人称の照応形しか束縛できない⁹。

(21) a. (na) *Kimmina-nun hangsang naycasin-ul/*kunyecasin-ul mit-ko iss-e.*

I Kimmina-TOP always myself-ACC/herself-ACC trust-KO ISS-IND

「(私) キム・ミナはいつも自分自身を信じている。」

⁹ Zanuttini, Pak & Portner (2012) は、朝鮮語の代名詞代用表現を指令法 (jussive) の節の主語に特徴的な現象であるとしているが、Kim (2015) や Choi (2016) はなりすましであるとみなしている。

- b. (tangsin) emmeni-kkeyse-nun tangsincasin-ul/*kunyecasin-ul salangha-sip-ni-ka?
you mother-HON-TOP yourself-ACC/herself-ACC love-HON-NI-Q
「お母さん (=あなた) は自分自身を愛していますか?」¹⁰ (Kim 2015)

なりすましとの関連での朝鮮語とインドネシア語の最近の研究としては他に Adams & Connors (2020) が人称指定の点から論じている。

8. 今後の展望

本稿では、対象言語の先行研究における代名詞代用・呼びかけ表現の扱いをまとめた。その中で、ある言語の研究ではある程度深く記述・分析がなされているが、他の言語の研究では全く手が付けられていないような現象があることが判明した。例えば、7節で見たように、インドネシア語と朝鮮語はなりすまし現象という一般言語学的背景での研究が進んでいる。だが、他の言語ではそのような視点からの研究はほぼ皆無と言ってよい¹¹。また、代名詞代用表現と呼びかけ表現の区別が明確になされている言語もあれば、なされていない言語もあった。今後、研究が進んでいる言語の先行事例を参考にして、共通の基準の下で、対象言語の通言語的研究を進めていく必要がある。

そのために、現在、我々のプロジェクトでは本稿の対象言語とベトナム語、日本語について代名詞代用・呼びかけ表現のデータベースを作成し始めた。このデータベースには、個別の表現について、その形式的・意味的特徴、代名詞代用表現（自称、対称）／呼びかけ表現／敬称になるかどうか（なる場合には例も付ける）などの情報を収録する。ある言語で代名詞代用・呼びかけ表現になる表現に対応する別の言語の対応表現についても調べられるようにする。

個別の表現を収集するのは、類似の表現でも代名詞代用・呼びかけ表現になるか否かが異なるものがあるためである。例えば、ビルマ語の *p^hèp^hè* 「お父さん」、*mè mè* 「お母さん」は代名詞代用表現になるが、*p^hà gìn* 「父、父親」、*mì gìn* 「母、母親」はならない。ジャワ語では、*profesor* 「教授」は代名詞代用表現になるが、*dosen* 「大学教員」、*guru* 「教師」はそのままではならない。

敬称を同時に調べるのは、以下の2つの理由による。第一に、代名詞代用・呼びかけ表現になる形式は敬称になる形式と分布が重複するが、完全には一致しない。例えば、ジャワ語では *kyai* 「イスラーム教長老」は代名詞代用表現にはなるが、**Kyai Mangun* のように敬称として用いることはない。また、インドネシア語で指摘されているのと同じく (4.3節参照)、ジャワ語でも短縮により敬称になった表現は代名詞代用表現にはならない。第二に、そのままでは代名詞代用表現になることが不可能でも、敬称を伴えば可能になることがある。日本語に関しては、1節の例(3)を論じた際に、「店員」と「店員さん」の違いとしてすでにそれを指摘した。同様の現象はジャワ語でも見られ、上述の *dosen*, *guru* は *pak* 「～さん (男性)」や *bu* 「～さん (女性)」などの敬称を付ければ、代名詞代用表現として使えるようになる。

また、このデータベースでは形式的特徴として、本稿の対象言語の先行研究では言及がないもの

¹⁰ 日本語では「私、キム・ミナ」のように言えても、「*あなた、キム・ミナ」や「*私、先生」のような言い方はできない。このような人称代名詞と代名詞代用表現の並置については、対象言語における言語事実を今後の研究で明らかにしていく必要がある。

¹¹ 管見の限り、日本語のなりすましについての研究には Furuya (2016) がある。

の、日本語では可能な照応形と数量表現も含む。ビルマ語の *kò* は日本語の「自分」と同じく、照応から転化して自称の代名詞代用表現となったものである。ジャワ語では (22) のように、「名詞＋数詞」という形式の数量表現が対称の代名詞代用表現になる。

- (22) *Wong loro arep lunga ning ngendi?*
person two FUT go to where
「二人 (=あなたたち) はどこに行く？」

このようなデータベースの構築により、通言語的比較が可能になり、代名詞代用・呼びかけ表現の記述や理論的分析に貢献するはずである。また、代名詞代用表現を一般的に使用する他の言語の研究においても¹²、調査票的な役割を果たすことが期待される。

参考文献

- Adams, Nikki & Thomas J. Connors. 2020. Imposter and their implication for third-person feature specification. *Linguistics* 58(2). 537–567. doi:10.1515/ling-2020-0047.
- Alves, Mark J. 1997. Problems in the European linguistic analyses of Southeast Asian languages. *Explorations in Southeast Asian Studies: A Journal of the Southeast Asian Studies Students Association* 1(1). 1–10.
- Alwi, Hasan, Soenjono Dardjowidjojo, Hans Lapoliwa & Anton M. Moeliono. 1998. *Tata bahasa baku bahasa Indonesia* [インドネシア語標準文法]. Jakarta: Balai Pustaka, 第3版.
- Angkab Palakornkul. 1972. *A socio-linguistic study of pronominal strategy in spoken Bangkok Thai*. テキサス大学オースティン校博士論文.
- Asmah Haji Omar. 2009. *Nahu Melayu mutakhir* [最新マレー語文法]. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka, 第5版.
- Choi, Jaehoon. 2016. Jussive subjects as imposters. *Eoneohag* 74. 3–24.
- Collins, Chris & Paul Postal. 2012. *Imposters: A study of pronominal agreement*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Connors, Thomas J., Claudia M. Brugman & Nikki B. Adams. 2016. Reference tracking and non-canonical referring expressions in Indonesian. In Yanti & Timothy McKinnon (eds.), *Studies in language typology and change*, vol. 60 *NUSA*, 59–88. Jakarta and Tokyo: Universitas Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies. doi:10.15026/87444.
- Cooke, Joseph R. 1968. *Pronominal reference in Thai, Burmese, and Vietnamese*. Berkeley, CA: University of California Press. <https://escholarship.org/uc/item/9hf0g4gn>.
- Ewing, Michael C. & Dwi Noverini Djenar. 2019. Address, reference and sententiality in Indonesian conversation. In Paul Bouissac (ed.), *The social dynamics of pronominal systems*, 253–287. Amsterdam: John Benjamins.
- Flannery, Greg. 2009. Open and closed system of self-reference and addressee-reference in Indonesian and English: A broad typological distinction. In Yvonne Treis & Rik De Busser (eds.), *Selected papers from the 2009 conference of the Australian Linguistic Society*, <http://www.als.asn.au/proceedings/als2009/flannery.pdf>.
- Furuya, Kaori. 2016. PRO and (under)specification of person in imposter constructions. *Theory and Practice in Language Studies* 6(9). 1723–1731. doi:10.17507/tpls.0609.01.

¹² 代名詞代用表現の一般的使用が見られるのは、主に東南アジアの諸言語であるが、Connors, Brugman & Adams (2016) によると、モルディブ共和国で話されている印欧語のディベヒ語もそうであるという。

- Helmbrecht, Johannes. 2013. Politeness distinctions in pronouns. In Matthew S. Dryer & Martin Haspelmath (eds.), *The world atlas of language structures online*. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology. <http://wals.info/chapter/45>.
- Jenny, Mathias & San San Hnin Tun. 2016. *Burmese: A comprehensive grammar*. London: Routledge.
- Kaswanti Purwo, Bambang. 1984. The categorial system in contemporary Indonesian: Pronouns. In John W. M. Verhaar (ed.), *Towards a description of contemporary Indonesian: Preliminary studies*, vol. 2 *NUSA*, 55–74. Jakarta: Universitas Atma Jaya.
- Kaufman, Daniel. 2014. The syntax of Indonesian imposters. In Chris Collins (ed.), *Cross-linguistic studies of imposters and pronominal agreement*, 89–120. Oxford: Oxford University Press.
- Kim, Lan. 2015. A note on imposter expressions in Korean. *Eoneohag* 71. 139–160.
- レスタリ, スリ・ブディ. 2010. 『ジャワ語の敬語に関する記述的研究—第三者敬語を中心に—』東京外国語大学博士論文.
- Liaw, Yock Fang. 1999. *Malay grammar made easy: A comprehensive guide*. Singapore: Times Books International.
- M. R. Kalaya Tingsabadh & Amara Prasithratsint. 1986. *The use of address terms in Thai during the Ratanakosin period*. Bangkok: Chulalongkorn University Press.
- Martin, Samuel E. 1992. *A reference grammar of Korean: A complete guide to the grammar and history of the Korean language*. Rutland, VT: Charles E. Tuttle.
- McGinn, Richard. 1991. Pronouns, politeness, and hierarchy in Malay. In Robert Blust (ed.), *Currents in pacific linguistics: Festschrift in honor of George W. Grace*, vol. C-177 Pacific Linguistics, 197–221. Canberra: Australian National University.
- Mintz, Malcolm W. 2002. *An Indonesian & Malay grammar for students*. Perth: Indonesian/Malay Texts and Resource, 第2版.
- Navavan Bandhmedha. 2016. *Way-yaa-koon thay* [タイ語文法]. Bangkok: Chulalongkorn University Printing House, 第7版.
- 野元裕樹. 2019. 「代名詞代用語の意味論」『第159回日本語学会大会予稿集』, 486–492. https://www.ls-japan.org/modules/documents/LSJpapers/meeting/159/handouts/p/P-5_159.pdf.
- 野元裕樹. 2020. 『マレー語の教科書：詳解文法』 Next Publishing Authors Press.
- Nomoto, Hiroki, Kenji Okano, David Moeljadi & Hideo Sawada. 2018. TUFS Asian Language Parallel Corpus (TALPCo). In *Proceedings of the twenty-fourth annual meeting of the association for natural language processing*, 436–439. http://www.anlp.jp/proceedings/annual_meeting/2018/pdf_dir/C3-5.pdf.
- Nor Hashimah Jalaluddin, Harishon Radzi, Maslida Yusof, Raja Masittah Raja Ariffin & Sa'adiah Ma'alip. 2005. *Sistem panggilan dalam keluarga Melayu: Satu dokumentasi* [マレーの家族における呼称の体系：記録]. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.
- 岡野賢二. 2007. 『現代ビルマ（ミャンマー）語文法』国際語学社.
- 岡野賢二. 2019. 「日本語とビルマ語の相互変換における問題点—人物を指示する名詞周辺の現象—」『東京外大東南アジア学』24. 55–79. doi:10.15026/92935.
- Okell, John. 1969. *A reference grammar of colloquial Burmese*. London: Oxford University Press.
- Okell, John & Anna J. Allott. 2001. *Burmese/Myanmar dictionary of grammatical forms*. Richmond, Surrey: Curzon Press.
- 小野沢純. 1996. 『基礎マレーシア語』大学書林.
- パク・ジノ (박진호). 2007. 「유형론의 관점에서 본 국어 대명사 체계의 특징 [類型論の観点から見た韓国語の代名詞体系の特徴]」『국어학』50. 115–147.
- Radiah Yusuf. 2007. Translating kinship terms to Malay. *Translation Journal* 11(3). <https://translationjournal.net/journal/41malay.htm>.
- 崎山理. 1989. 「ジャワ語」亀井孝, 河野六郎 & 千野栄一 (編), 『言語学大辞典 第2巻 世界言語編 (中)』, 209–212. 三省堂.
- Sneddon, James Neil, Alexander K. Adelaar, Dwi N. Djenar & Michael Ewing. 2010. *Indonesian: A comprehensive grammar*. London: Routledge, 第2版.

- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン (齋藤). 2020. 「タイ語での代名詞代用表現・呼びかけ表現に関する考察」 『東京外大東南アジア学』 26. 1–23. doi:10.15026/95672.
- 鈴木孝夫. 1973. 『ことばと文化』 岩波書店.
- ソ・チョンス (서정수). 1990. 『국어문법 [国語文法]』 ソウル: プリギブンナム (뿌리깊은나무).
- 田窪行則. 1997. 日本語の人称表現. 田窪行則 (編) 『視点と言語行動』, 13–41. くろしお出版.
- Theeraporn Ratitamkul & Satoshi Uehara. 2012. A contrastive case study of pronominal forms in English, Japanese and Thai: A parallel corpus approach. In Tadao Miyamoto, Naoyuki Ono, Kingkarn Thepkanjana & Satoshi Uehara (eds.), *Typological studies on languages in Thailand and Japan*, 137–158. Tokyo: Hituzi Syobo Publishing.
- Thomason, Sarah G. & Daniel L. Everett. 2005. Pronoun borrowing. In Charles Chang, Michael J. Houser, Yuni Kim, David Mortensen, Mischa Park-Doob & Maziar Toosarvandani (eds.), *Twenty-seventh meeting of the Berkeley Linguistics Society*, vol. 27, 301–315. Berkeley, CA: Department of Linguistics, University of California at Berkeley.
- 藪司郎. 1992. 「ビルマ語」. 亀井孝, 河野六郎 & 千野栄一 (編), 『言語学大辞典 第3巻 世界言語編 (下-1)』, 567–610. 三省堂.
- Zanutini, Raffaella, Miok Pak & Paul Portner. 2012. A syntactic analysis of interpretive restrictions on imperative, promissive, and exhortative subjects. *Natural Language and Linguistic Theory* 30. 1231–1274. doi:10.1007/s11049-012-9176-2.

執筆者連絡先 : nomoto@tufs.ac.jp, sunisa@tufs.ac.jp, okanok@tufs.ac.jp, thuzarhlaing@tufs.ac.jp, namyj@tufs.ac.jp, tari0828@apu.ac.jp

原稿受理日 : 2020年12月21日